

Pitchari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第83号

ななえ古写真物語

VOL. 83

島を巡る橋

四阿ある金波橋

大正時代か

大沼公園内



大沼に浮かぶ大小様々の島は、駒ヶ岳の噴火活動を要因とする流山現象によって、そのほとんどが造られたといわれています。現在、これらの島を繋ぐように多くの橋が架けられ、遊歩道として整備されているので、景色を楽しみながら散策することができます。

大沼公園が本格的に整備される以前にも、個人で架けたという菅根橋や漣橋（さざなみばし）という石橋があったり、公園広場から島々を巡ろうとする時、最初に渡ることになる後楽橋も、今のような木橋ではなく、簡素な土橋だったことが文献に記されており、また古い絵葉書などからもうかがえます。

本格的に島巡りが出来るよう橋が架けられたのは大正期からで、その背景には、明治後半から北海道庁を中心に、大沼を本格的な公園として整備する気運が高まったからで、大正2年には、当時日本でも指折りの林学博士だった本田静六に大沼公園の設計を委嘱。本田博士は翌年に、宇喜多秀夫や宮川勇ら地元の名士の案内のもと実地調査を行い、その成果を「大沼公園改良案」として報告。こういった経緯から、その後の公園開発は、この改良案に沿って進められました。

このような社会情勢の中で、ピチャリ第5号に掲載した「ハッ橋」のような趣向を凝らしたもののや、従来の土橋なども、立派な木橋に架け替えられたと推測されます。

そのような橋の一つに、写真で紹介している金波橋があります。大正6年頃に建立されたこの橋は、長さ約35メートル、幅3.6メートルの大きさで、中央部に数寄屋造りの四阿（あずまや）が設けられました。ゆっくりと休みながら、大沼の景観を楽しんでもらいたいという配慮なのでしょう。いずれにせよ、こういった趣のある橋が存在していたことは、往時の大沼公園のが、風情にあふれていたことを伝えてくれますが、残念ながらこの四阿は、風雨による損害が著しかったため、大正12年頃に改修され簡素な橋に変わってしまいました。どうやら他の橋も改修していく過程で、時代に即した形状へと変化し、かつての趣を失ったようです。

ところで「金波」の意味を調べてみますと「水面に日光や月光などが映って美しく光る波」とあります。その情景を思い描き、昔は優美な時を過ごしていたんだなと感じると同時に、現在どれだけの人がその美しさに気付けるのか、そんなことを考えた一枚の紹介でした。

25日

ジュニア探検クラブで、町民文化祭に参加しました。班ごとに分かれて、せんべいのタネ作りから焼きまでの体験や石臼や謄写版体験、割りばし鉄砲・ペットボトル風車づくりなど、盛りだくさんの内容でした。また、七飯町郷土史かるたを用いて、カルタとりにも挑戦するなど、いつもより短い時間のプログラムの中で、子どもたちは食べたり、作ったり、働いたりと大忙しながらも楽しんでいました。



25・26日

今年も、七飯町郷土史研究会と歴史館友の会の皆さんが協力して、七飯町民文化祭第2会場を盛り上げて下さいました。

今年は、かるた取りを新たなプログラムとして取り入れつつ、射的やリンゴ・ブドウの試食、絵本の読み聞かせなど、多くのコーナーが賑わいを見せていました。1年で最も歴史館が人であふれる2日間を創り上げて下さった郷土史研究会・友の会の方々には、この場を借りてお礼申し上げます。



館外展「大沼×Photographs」開催中！

11月11日～24日までの間、大沼国際セミナーハウスのギャラリーとハワイエを会場に、館外展を開催しています。

本展示は、当館で所蔵している古写真から、大沼公園に関係するものを中心に紹介することで、古き時代の大沼の様子を伝えることが出来ればと考え、写真48枚と絵葉書6種類、鳥瞰図3種類を展示しました。開催期間は短いのですが、多くの方に、一昔前の大沼の姿を堪能してもらえれば幸いです。



12月の予定

1	月
2	火
3	水 夜の博物館
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火 天皇誕生日
24	水
25	木
26	金
27	土 ジュニア探検クラブ
28	日 ふぁみりーていみゅーじあむ
29	月
30	火
31	水 年末年始休館日

※12月31日～1月5日は休館となります。

サクランボ？

写真は、本町にある見晴公園で拾ったサクランボのようなもの。調べてみたらメタセコイアの球果だった。気付かないだけで、身近には知らない物であふれているようです。



編集後記 ～tawagoto～

雪虫の飛来から幾週間か過ぎ、ようやく山々が薄化粧をはじめた。カラマツの黄葉に昨年ほどの鮮やかさを感じなかったのは心残りだが、年々、寒さへの耐性が低くなってきている私自身も、そろそろ冬への心構えをしなくてはならない。

夏の思い出とともに整理するはずだった昆虫標本の数も、年々減少の一途をたどっている中、雑務ばかりが増えている現実。これはある意味、冬の到来と言えるのかもしれない。(やまだひさし)

Pichart

～ピチャリ～

第83号

平成26年11月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp